

アジア太平洋国際教育交流団体(APAIE)2024 パース大会 Study in Japan 情報交換会での挨拶

在パース日本国総領事の内藤康司と申します。ようこそパースをご訪問頂きました。エーパイ・パース大会の Study in Japan 事業には当館も後援をさせて頂いております。約100名もの多数の有名大学の代表の方々にご参加頂き、日本の大学の魅力を共有頂くことは、日豪、日本と西豪州の発展にとり極めて有意義なことであり、心より御礼を申し上げます。

本日は情報交換会ということですので、まず私からひとこと当地事情を共有をさせていただきます。当地は治安面で相対的に恵まれた街であり、ありがたいことに大変親日です。日本からの留学生は西豪州政府の統計によれば年間約1200名です。またこれは豪州全体の統計ですがワーキングホリデー申請者は昨年、2005年以来過去最高を記録するなど、日本の若者の間で人気が高まっております。

ご案内のとおり、日豪関係は、西豪州で採掘される鉄鉱石、その後のLNGを中心に補完的な経済関係を構築し、戦後の日本と豪州の経済のめざましい成長につながり、世界経済に大きく貢献した成功体験があります。それを幅広い交流活動による人的関係が支えてきました。ですので、豪州、そして特に西豪州の人々には日本に対する深い憧憬と親近感があると言えると思います。

日本語教育も盛んです。一時のピークを越えましたが、人口あたりの日本語を勉強する人口の割合が世界で最も高いのがオーストラリアです。学校交流や姉妹都市交流も盛んです。

現在、日本が輸入する鉄鉱石の53%が西豪州産です。LNGも35%で、ウクライナを侵攻したロシアのサハリンが9%ですので、如何に大きく日本が依存しているかわかると思います。そして食糧についても、日本が輸入する小麦の15%近くが西オーストラリア州産です。カノーラ油もトップは西豪州産であり。西豪州なしには電力を含め、1日たりとも日本の生活が成り立たないほど、日本は西豪州に深く依存しております。

安全保障面でも豪州は同志国連携の中核、すなわち米国に次ぐところまでできております。パースはインド洋の玄関口であり、潜水艦で有名なスターリン海軍基地があります。こうした地政学的重要性からも岸田総理が16ヶ月前に当地を只唯一の目的地として訪問をされました。そのプラスの影響もあり、昨年は前向きな進展が続き、直行便も再開しましたので、人的交流が大きく拡大しております。

昨年12月には豪州人の最も人気の高い訪問地として東京がバリ島を抜きトップとなりました。これには我々も驚きました。豪州の人々に聞けば、家族や周囲の友人の中で誰かが訪日している、もしくは最近訪日したというような状況です。そしてオーストラリア人の平均滞在数は2週間です。この背景には為替の状況もありますが、平均収入が日本の倍、西豪州はさらにそれ以上という事情があり、これには複雑な思いもありますが、留学生受入れにとっては有利な事情と言えるかと思います。

今年も様々に観点から西豪州に注目が集まっています。先月はインド洋会議がパースで開催され、日本から高村外務大臣政務官が出席しました。今年はカーティン大学に日本センターが開設される予定です。そして、兵庫文化センターの後継として日本教育文化センターが先月開設されたところです。さらに11月にはJAXAと文部科学省が共催するアジア太平洋宇宙機関会議もパースにおいて開催され、40ヶ国より代表が参集する予定です。

パースが、日本のガイドブックで「世界で最も美しい街」とのキャッチフレーズで紹介されていることはありがたいことです。日本との関係構築に意欲的な、UWA、カーティン、マードック大学、イーティス・カウエン大学等があります。いずれもレベルが高く、伝統がありUWAに加え、例えばカーティン大学は、鉱山エンジニアリング分野でコロラド大学に次いで世界で最も知見が集約された大学で、日本の大学との交流も盛んです。この機会を活用して、是非これらの大学との関係構築も検討を頂ければ幸いです。

ありがとうございました。

(了)